

『千葉敬愛経済大学研究論集』

既刊号論文目録

第 1 号

創刊の辞	長戸路政司
購買力の強制的移転説	
ー分析と批判ー	安藤春夫
西ドイツの金融政策	
ー通貨価値安定に関してー	原純子
千葉市郊外住宅地域の組織化に関する諸問題	山野井梅三
現代産業社会における人間自己疎外	
ー社会病理学的一問題提起ー	別府芳雄
超巨大視野に立つ人間観	
ーTeilhard de Chardin をめぐってー	長戸路千秋
幕末における政治思想の一論稿	松井喜代司

第 2 号

Water Characters of Mineral Springs in the Bōsō Peninsula and those in the Asōbara Area	山岸忠夫
ブラジル・ノルデステ工業化の問題点	幸田清喜
自己疎外の意味するもの	
ーその精神病理学的考察ー	別府芳雄
『愛の苦悩』	
ーサン・テグジュペリーの女性観ー	沢護
社会政策の段階的展開についての一考察	中村智一郎
ドイツ運動貸借対照表論の系譜	鈴木明男
刑法における過失の概念	
ー責任形式としての過失概念の展開ー	花井哲也
	書評
金融政策について	
ーケインズからフリードマンまでー	原純子

第 3 号

財政本質二元説	安藤 春 夫
IMFと国際流動性	塩谷 安 夫
シュムペーターの利子理論	岩崎 秀 二
疎外概念の分類と限界	別府 芳 雄
最低賃金制の生成条件と効果（上） —1909年法を中心に—	中村智一郎
簿記と貸借対照表機能に関する一吟味 —コジオールの所論を中心として—	鈴木 明 男
A TENTATIVE TRANSLASION of “The Parlement of Foules” Written by Geoffrey Chaucer	白 倉 英 子

第 4 号

国際通貨体制の展望	難波勝二
社会開発への一考察	山野井梅三
国際通貨制度と平価変更 —円切上げに関連して—	原純子
最低賃金制の生成条件と効果（下） —1909年法を中心に—	中村智一郎
マーケティング方法論 —統合理論とシステムズ・アプローチ—	石岡雅憲
アンガージュマン文学の誕生と没落	沢護
紹 介	
J・カルミッチェル著『カール・マルクス』	別府芳雄
ヘルマン・ミュールハウス著『学説および判例に おける過失—とくに道路交通法を中心として—』	花井哲也

第 5 号

財政学と利益主義……………井 藤 半 彌
安藤春夫博士著『財政本質学説』に答える……………岡 野 鑑 記
アダム・スミスの財政学説の先駆者における解釈の検討…高 木 壽 一

国際通貨調整と世界経済の危機	・	劔持通夫
固定相場と変動相場	・	難波勝二
第1次世界大戦後の日本の農業問題	・	小倉倉一
1907年の恐慌と連邦準備法	・	塩谷安夫
安藤春夫博士の略歴および著作目録		

第 6 号

認識目的と処方箋財政学		
ー山口忠夫博士の書評を読みー	・	安藤春夫
仏教における実存の問題		
ー特に親鸞をみつめてー	・	隆高鑑
大恐慌とドルの減価政策	・	塩谷安夫
東洋政治の思想的特質	・	松井喜代司
評価論の批判的吟味		
ーレフソンの所論を中心としてー	・	鈴木明男
G・ベンの小説理論		
ー『Roman des Phänotyp』を中心としてー	・	中村善一

第 7 号

戦後鉄鋼業の資本蓄積の研究	・	劔持通夫
ブリュッセルのマルクス	・	別府芳雄
国際通貨制度の改革の展望	・	原純子
現代社会政策の特質	・	中村智一郎
過失犯について	・	花井哲也

第 8 号

第1次世界大戦後の日本経済の基本的動向	・	小倉倉一
現代経営学とシステム論	・	石岡雅憲
ゴットフリート・ベンの散文様式		
ー『絶対散文』へのアプローチー	・	中村善一
意思決定と資産評価に関する一考察	・	吉村文雄

バーナードの組織概念に関する一考察	飯田 謙 一
動態論と租税的利益計算	鈴木明 男

資 料

刑事判例研究	花井 哲 也
--------	--------

第 9 号

開学十周年記念論集発刊に際して	長戸路政司
開学十周年記念号によせて	安藤 春 夫

社 会 科 学 篇

財政学方法論再考

一岡野鑑記博士の批判を中心に一	安藤 春 夫
日本経済史における明治40年代	小倉 倉 一

石川県小松市周縁農村工業地帯における

労働力構造の推移	幸田 清 喜
----------	--------

戦後アメリカの経済恐慌と政府活動	塩谷 安 夫
------------------	--------

独立革命期のアメリカ植民地商人の研究（三）

一『ニューヨーク商業会議所』記録を通じて（上）	仲 田 光
-------------------------	-------

国債管理政策

一金融政策との関連一	原 純 子
青年ヘーゲル学派とマルクス（Ⅰ）	別府 芳 雄
社会化の課題（そのⅠ）	

一教育社会学の立場から一	山野井梅三
--------------	-------

理論経済学の方法	岩崎 秀 二
----------	--------

動態論と租税的評価	鈴木明 男
-----------	-------

いわゆる社会賃金について	中村智一郎
--------------	-------

地方政治の現状とその将来に対する若干の思考	松井喜代司
-----------------------	-------

組織境界の再検討

一バーナードの所説を中心として一	飯田 謙 一
------------------	--------

経営と利潤	石岡 雅 憲
-------	--------

アンティ・ベラム期におけるアメリカの

工業化過程について（Ⅰ）	牧野 俊 重
--------------	--------

現代会計学の形成に関する一考察

ーベッドフォードの所論を中心としてー……………吉村文雄

人 文 科 学 篇

カントの永久平和論……………長戸路千秋

マルドロールの『第4の歌』……………長戸路信行

E・ヘミングウェイの世界……………佐藤英夫

サン・テグジュペリーにおける沙漠の意義について……………沢 護

G・ベンの創造的主観性……………中村善一